

ハンガーを巣材に使用したツミ

平野敏明

〒320-0838 宇都宮市吉野2-3-15
e-mail: hirano12@peach.ocn.ne.jp

市街地やビル街に生息するキジバト *Streptopelia orientalis* やハシボソガラス *Corvus corone*, ハシブトガラス *C. macrorhynchos* は、巣材に針金やハンガーを利用することが知られている (滝之入 1988, 中村 1997, 唐沢 1997)。筆者は、栃木県宇都宮市の住宅地で毎年7つがい前後のツミ *Accipiter gularis* の繁殖を観察しているが(平野 1994, 1998), 1999年の繁殖期に巣材にハンガーを利用した1つがいのツミを観察した。人工物を巣材に利用することは、ワシ・タカ類, 特にハイタカ属では珍しいと思われるのでここに報告する。

本報告をまとめるにあたり猪瀬英一氏と植田陸之氏には貴重な情報を提供していただいた。また、黒沢隆氏には原稿を読んでいただき、貴重なご助言をいただいた。以上の方々にお礼申し上げる。

観察は、栃木県宇都宮市の住宅密集地の道路沿いで行なった。ここには孤立した2本のモミ *Abies firma* があり、1991年以降、毎年1つがいのツミが営巣している。この地域は、2階建の一般住宅や商店に混じってオフィスビルやマンションなどが点在している。また、2つの主要幹線道路が交差し、日中の交通量は著しく多い。街路樹として2本のモミの大木のほかトチノキ *Aesculus turbinata* などが植栽されている。交差点の北西約200mに面積約0.7haの小規模な公園がある。

このつがいの観察は、1週間に1回程度5~10分間行なった。7倍の双眼鏡をもちいて、約30mの距離から観察した。

1999年3月下旬につがいで観察されたあと、4月15日に造巣を確認した。巣は、樹高23mのモミの高さ13mの横枝の上につくられていた。6月14日、観察したところ白いビニール被膜のハンガー2本が巣材に使われているのに気づいた。6月25日にはさらに青色のビニール被膜のハンガー1本が巣からでているのを観察した。これらのハンガーは、巣の上ののっていたり、巣外に引っかかっているのではなく、ほかの巣材の中に組み込まれていた(図1)。6月21日に4羽のヒナの巣立ちを確認した(猪瀬英一 私信)。

猛禽類で人工物を巣材にもちいる例として、トビ *Milvus migrans* やミサゴ *Pandion haliaetus* が布切れや紙を産座に運ぶのが知られている(森岡ほか 1995, 清棲 1978)。しかし、筆者は、1987年以降ツミの巣を約70巣観察しているが、巣材にハンガーなど人工物を利

1999年10月1日 受理

キーワード: 巣材, ツミ, ハンガー



図1. ハンガーを巣材にもちいたツミの巣

Fig. 1. A nest of Japanese Lesser Sparrowhawks with wire hangers

用した例は、このつがいを除くと全くなかった。また、東京の住宅地で繁殖するツミでも人工物の巣材をもちいた例は観察されていない(植田睦之 私信)。ただし、このつがいの観察は、調査時間が短く、実際にツミがハンガーを運び込むのを観察していない。ツミは、カラス類の古巣を利用することもあるので(望月ほか 1995)、今回の例もカラスがハンガーを運んだカラスの古巣を利用したためと考えることもできた。しかし、このモミでは1991年以降毎年ツミが営巣し、カラス類はまったく営巣していないこと、造巣初期にはハンガーは認められなかったことから、ハンガーは明らかにツミによって運びこまれたものであると思われた。ツミでは雌雄で巣材運びをするため、雌雄どちらが運んだかは明らかでなかった。また、ツミは木から枝を折って運び、地上に落ちている枝を利用することはほとんどない(平野 未発表)。したがって、ハンガーは軒先から集められたものと考えられた。

この場所は、宇都宮市の住宅地周辺で繁殖するツミのうち、周囲に樹木がもっとも少ない営巣地である。毎年、ここで繁殖するつがいは、巣から60~100mの人家の庭木や植込みから巣材を集めていた。1998年以降、それ以前まで巣材集めによく利用していた営巣木の西側約100mにあるややまとまった植込みがマンション建設にともない消失した。宇都宮市の住宅地で繁殖するツミの多くは、営巣木から半径50m以内の場所から巣材を運んでいる(平野 未発表)。したがって、今回、ツミが巣材の一部にハンガーを利用した理由として、巣材不足が考えられた。

引用文献

- 平野敏明. 1994. 繁殖期におけるツミの鳴き声活動と空中ディスプレイについて. *Strix* 13: 31-39.
- 平野敏明. 1998. 住宅地で観察されたツミの2回目繁殖行動について. *Strix* 16: 167-170.
- 唐沢孝一. 1997. ハシブトガラス. 樋口広芳・森岡弘之・山岸哲 (編). 日本動物大百科第4巻, 鳥類II. pp. 170-171. 平凡社, 東京.
- 清棲幸保. 1978. 日本鳥類大図鑑・増補改訂版. 講談社, 東京.
- 望月和芳・石井悟・山岸良子. 1995. 横浜市内で記録されたツミの繁殖について. *Binos* 2: 43-52.
- 森岡照明・叶内拓哉・川田隆・山形則男. 1995. 図鑑日本のワシタカ類. 文一総合出版, 東京.
- 中村浩志. 1997. ハシボソガラス. 樋口広芳・森岡弘之・山岸哲 (編). 日本動物大百科第4巻 鳥類II. p. 170. 平凡社, 東京.
- 滝之入新一. 1988. 古巣から見た都市鳥の生態. 都市鳥研究会 (編). 東京駅・皇居周辺における都市環境下に生息する野生鳥類の生態研究. pp. 102-105. 都市鳥研究会, 和光市.

Use of wire hangers as nest material by Japanese Lesser Sparrowhawks

Toshiaki Hirano

c/o T. Tomuro, 2-3-15 Yoshino, Utsunomiya, Tochigi 320-0838

Wire hangers were used as nest material by a pair of Japanese Lesser Sparrowhawks *Accipiter gularis* in the residential areas of Utsunomiya City, Tochigi, central Japan. This pair produced four fledglings in mid June 1999. This is the first report of this species using artificial nest material in Japan.

Key words: *Accipiter gularis*, *hanger*, *artificial nest materials*